

レジデントのための 血液透析患者マネジメント

門川俊明 著

＜書評者＞ 柏原直樹（川崎医科大学主任教授・腎臓・高血圧内科学/
川崎医科大学レジデント教育委員会 委員長）

いまや血液透析療法は専門医の手に委ねるべき特殊なものではない。透析患者の数は増加の一途をたどっており、専門性のいかにかわからず、レジデントはさまざまな診療現場で血液透析患者の診療に携わることを避けては通れない。主病が別であっても受け持った患者が透析中であつたり、重症化した際に血液浄化療法を余儀なくされることもしばしばである。

透析患者を受け持った途端に、具体的な透析スケジュール、食事内容、合併する貧血の管理などに直面することになる。不幸にして透析療法の実際は、学生時代にはほとんど教えられていない。さあ、どうするか。取るべき方法は、①専門医・指導医の指導を仰ぐ、②書物を読む、のいずれかである。しかし、身近に専門医をみつけることができないことも多く、また自ら基本がわかっていないと、適切な指導を受けることすらままならない。書店に並ぶ血液透析の本は専門医を対象に書かれたものが大半であり、大部に過ぎる。まにあわない。

このように、血液透析療法が普

遍的な治療手段であるにもかかわらず、適切なテキストがないため、レジデントは困惑を余儀なくされていたのである。血液透析患者のマネジメント力を身につけることは、たとえば「抗生薬の使用法」、「胸部 X 線写真の読影法」を修得するのと同様に必須である。一方であまりに細部、専門的な知識や技能の修得は不要である。

本書はレジデントの目線に立って書かれた待望の書である。著者は腎臓内科をローテイトしてくる新人レジデントを相手にして、この領域の指導を 10 年近く行っており、そのエッセンスが凝縮されている。この領域の知識をまったく持っていないレジデントを想定して、「血液透析の原理」から説き起こし、マネジメントにおいて必要な具体的事項に至るまで、必要な知識が過不足なく簡潔にまとめられている。記述は極めて平易であり、無駄がない。予備知識を持たない初心者レジデントを相手にして、理解度を確かめながら、理路整然と解説をする著者の姿が思い浮かぶ。読者を置きざりにすることがない。平易であると同時に

に、本書は心優しいテキストである。

血液透析に関して、まったく何も知らなくても、本書を通読することで、レジデントに必要なこの領域のほぼすべてを理解することができる。忙しいレジデントも余暇を使って 3～4 時間もあれば十分に通読可能である。

著者は先端的な研究業績を有する優れた scientist でもある。またインターネットを介した医療情報の利用法にも精通している。本書が経験則に偏せず、最新の臨床研究、正確な理論に基づいているのは、physician scientist としての著者の面目躍如たるところである。本書は極めて「わかりやすく」書かれているが、これは卓越した知的能力の発露なのである。

このような指導医を身近に持てるレジデントは幸福である。指導する立場の医師であってもレジデントをいかに指導するかを学ぶことができよう。本書をレジデント、研修医のみならず、血液透析療法を指導する立場の医師、コメディカルスタッフなど、およそ血液透析にかかわる医療者すべてに、必読の入門書として強く推薦したい。快著であり、名著である。

●A5 頁 200 2011 年
定価 2,940 円
(本体 2,800 円 + 税 5%)
[ISBN978-4-260-01387-1]
医学書院 刊